

# 言語機能を基準としたドイツ語コミュニケーション・テストの開発

岩崎克己

広島大学外国語教育研究センター

キーワード：ドイツ語教育，オンライン学習診断，言語機能，コミュニケーション・テスト

## はじめに

筆者は、現在、同僚の田中正道氏およびジョゼフ・ラウアー氏と共に、平成12年度科学研究特別補助金〔基盤研究C一般，課題番号12680268〕の交付を受け<sup>1)</sup>、言語機能を基準とした英語およびドイツ語のコミュニケーション能力診断テストとそれをオンライン上で提供するシステムを開発中である。本稿では、筆者がその作成を担当しているドイツ語コミュニケーション・テストの概要を説明すると共に、最初に作成されたテストAの実施結果ならびにその結果と他の標準化テストとの相関について報告し、考察を加える。本稿で紹介するテストAの全問題は、付録3として本稿の末尾に掲載した。なお、これをオンライン上で公開し、インターネットを通じてどこからでもアクセスし試せるようにするための体制を、現在構築中である<sup>2)</sup>。

## 本稿の構成

1. ドイツ語コミュニケーション・テストの概要
  - 1.1. 検査対象とした言語機能
  - 1.2. テストの形式と内容
  - 1.3. 使用した語彙
  - 1.4. 学習診断と受験者へのフィードバック
  - 1.5. オンライン化
2. 評価
  - 2.1. 実施対象
  - 2.2. 実施結果
  - 2.3. ドイツ語技能検定結果との相関
3. おわりに

## 付録

- 1：使用した動詞の一覧
- 2：使用した名詞・形容詞・副詞・不変化詞の一覧
- 3：テストAの全問題

## 1. ドイツ語コミュニケーション・テストの概要

### 1.1. 検査対象とした言語機能

今回作成したテストでは、Baldegger, M. / Müller, M. / Schneider, G. / Näf, A. (1980): Kontakt-

schwelle Deutsch als Fremdsprache. の第2章と Van Ek, J. A. / Trim, J. L. M. (1990): Threshold 90. の第5章に列挙されている代表的な言語機能の中から以下のような57の機能を選び、その理解の程度を測定した(以下、上記の2書をそれぞれ Kontaktschwelle, Threshold 90 と略す)。

### 検査対象とした言語機能

言語機能	Kontaktschwelle	Threshold 90	問題番号
01. 同定する (identifizieren, benennen)	1.1.1.	1.1.	1
02. 記述する (beschreiben)	1.1.4.	1.2.	2
03. 尋ねる (Informationen erfragen)	1.2.1.	1.4.	3
04. 陳述に同意する (zustimmen, beipflichten, bestätigen)	2.5.1.	2.1.	4
05. 見込みの程度を問う (nach Überzeugung, Glauben, Vermutungen fragen)	1.5.2.	2.10.	5
06. 許可を求める (um Erlaubnis bitten)	4.3.1.	2.20.	6/7
07. 許可を与える (erlauben)	4.2.1.	2.21.	7
08. 許可を与えない, 禁じる (Erlaubnis verweigern, verbieten)	4.2.3., 4.1.10.	2.22.	6
09. 喜びを表す (Freude ausdrücken)	3.6.	2.29.	8
10. 満足を表す/ 誉める (Zufriedenheit ausdrücken, loben, positiv bewerten)	3.7., 2.2.1.	2.35.	9
11. 不満を表す (Unzufriedenheit ausdrücken)	3.20.	2.36.	10
12. 驚きを表現する (Überraschung ausdrücken)	3.8.	2.41.	11
13. 失望を表す (Enttäuschung ausdrücken)	3.10.	2.45.	12
14. 感謝する (sich bedanken, dankend anerkennen)	5.3.2.1., 2.23.	2.49.	13/14
15. 相手の感謝に対応する (auf Dank reagieren)	5.3.2.2.	2.50.	14
16. 謝罪する (sich entschuldigen)	5.3.1.1., 2.3.3.	2.51.	15
17. 相手の謝罪に対応する (auf Entschuldigungen reagieren)	5.3.1.2.	2.52.	15
18. 賛成する (für X Partei nehmen)	2.1.2.	2.54.	16
19. 反対する (gegen X Partei nehmen)	2.1.2.	2.55.	17
20. 遺憾や同情を表す (bedauern, Mitleid ausdrücken)	2.2.8., 3.2.	2.57.	18
21. 共同行動を提案する (in bezug auf gemeinsame Handlungen vorschlagen)	4.1.17.	3.1.	19
22. 提案に同意する (in Vorschläge einwilligen)	4.5.1.	3.2.	19
23. 何かをするよう依頼する (jemanden auffordern)	4.1.1.	3.3.	20
24. 何かをするよう助言する (raten)	4.1.18.	3.4.	21
25. 何かをするよう命令する (befehlen)	4.1.10.	3.7.	22
26. 助けを求める (um Hilfe bitten)	4.1.4.	3.8.	23
27. 助けを申し出る (Hilfe anbieten)	4.4.4.	3.9.	24
28. 何かを提供する (etwas anbieten, offerieren)	4.4.2.	3.10.	25/26
29. 申し出や招待を受け入れる (Angebote annehmen)	4.5.3.	3.11.	26
30. 申し出や招待を断る (Angebote ablehnen)	4.5.5.	3.12.	25
31. あいさつする (jemanden begrüßen)	5.1.1.1.	4.2.	27
32. 知人の現況を尋ねる (nach dem Befinden fragen)	5.1.2.1.	4.3.	27
33. 話しかける (jemanden ansprechen)	5.1.4.1.	4.5., 4.6.	27
34. ある人を紹介する (jemanden vorstellen)	5.1.3.2.	4.8.	28
35. お祝いのことばを言う (gratulieren)	5.3.4.1.	4.10.	29
36. ためらう (zögern, nach Worten suchen)	4.5.6., 6.3.2.	5.2.	30
37. 自分の発言を訂正する (sich korrigieren)	6.3.4.	5.3.	31
38. 話題を持ち出す (auf etwas aufmerksam machen, Thema einführen)	1.1.6.	5.4.	32
39. 意見を表明する (Meinungen, Ansichten ausdrücken, Stellung nehmen)	2.1.1.	5.5.	33
40. 列挙する (aufzählen)	6.3.6.	5.6.	34
41. 例示する (Beispiel geben)	6.3.7.	5.7.	35
42. 強調する (betonen, hervorheben)	6.3.10.	5.8.	36
43. 話題を変える (Thema wechseln)	6.3.8.	5.10.	37
44. 発言権を求める (ums Wort bitten)	6.1.1.	5.14.	38
45. 発言権を譲る (das Wort überlassen, übergeben)	6.1.5.	5.16.	39
46. 発言を終える (Äußerung abschließen)	6.3.11.	5.20.	40
47. 理解できないことを伝える (Nicht-Verstehen signalisieren)	6.2.4.	6.1.	41
48. 発言の繰り返しを求める (um Wiederholung bitten)	6.2.2.	6.2.	42
49. 理解内容に関する確認を求める (um Explizierung, Kommentierung bitten)	6.2.6.	6.5.	43
50. 綴りを尋ねる (bitten zu buchstabieren)	6.2.3.	6.7.	44
51. 綴りを言ってやる (buchstabieren)	6.2.7.	6.15.	44
52. 知らないということを表明する (Nichtwissen ausdrücken)	1.3.4.	6.9.	45
53. 表現に関して助けを求める (um Ausdruckshilfe bitten)	6.3.3.	6.10.	46
54. 言い換える (umschreiben)	6.3.5.	6.12.	47
55. 発言を繰り返す (Äußerungen wiedergeben)	1.1.9.	6.13.	48
56. 理解を確認する (kontrollieren, ob eigene Äußerungen verstanden werden)	6.2.10.	6.14.	49
57. 感想を言う (Meinungen, Ansichten ausdrücken, Eindrücke mitteilen)	2.1.1.	5.5.	50

前ページの言語機能一覧には、それぞれのリストの対応する分類番号と作成した問題の番号も一緒にあげている。言語機能の選定に際しては、田中・Lauer 両氏により作成された英語コミュニケーション・テスト Tanaka, M. / Lauer, J. (2000) との並行性を念頭に置き、田中 (2000) における提案を基に日本の大学における初級ドイツ語授業の現状を考慮し、そのいくつかを差し替えた<sup>3)</sup>。なお、Kontaktschwelle も Threshold 90 も、ヨーロッパの成人を対象とする外国語教育において日常的なコミュニケーションを行うのに必要な言語能力の詳細なリストとして Council of Europe の委託を受けて作成され、1975年から相次いで出版された一連の Threshold Level Family<sup>4)</sup> の1つである。Kontaktschwelle はドイツ語に関し、外国人が旅行や滞在の際にあるいはまた自国を訪問するドイツ語話者と交流する際に必要な能力を、言語行為(機能)・一般及び特殊概念・文法・文型・語彙等に分けて詳細に記述したもので、一人立ちでコミュニケーションできる初級終了レベルの学習目標を規定したものである。また Threshold 90 は、そのシリーズの最初の出版物であり直接には英語に関して出されたものであるがそれ以外の言語の教育にも多大な影響を与えた初版の Van Ek, J. A. (1975) の大幅改訂版である。ここで記述された到達目標はどちらもそれぞれの言語でのカリキュラム・教科書・習熟度テスト等の作成基準として今日でも広く採用されており、またそれを基に新たな学習目標(達成レベル)の設定が行われている<sup>5)</sup>。なお、両者のリストの分類番号が大幅に違っている理由は、英語とドイツ語という二つの言語においてそれぞれ優勢な言語形式が異なるという事実を反映しているだけでなく、成立の際の歴史的な事情もあって分類の原理やその記述の詳しきの度合いがやや異なっているからである<sup>6)</sup>。

## 1.2. テストの形式と内容

テスト形式は4つの選択肢を用意したマルチプルチョイスとし、問題数は50題とした。配点は1題につき2点で、計100点満点である。少人数の学生を対象とするプレ実験の結果から、ドイツ語学習1年程度の初心者の場合、内容を吟味するのに1題につき約1分程度の時間が必要だと判断から制限時間は60分に設定した。問題形式としては、選択肢を「応答の発話」だけでなく、「話しかける発話」の方にも設定し、検査対象となる機能をその両方で調べた<sup>7)</sup>。

文法的にはどの選択肢にも非文はない。したがって、検査対象となっている言語機能の内容的な理解によって、初めて適切な応答を選ぶことができる。問題の作成の際は、「話しかける発話」と「応答の発話」の間での語彙レベルでの類似性や親近性が正解を探す手がかりとならないように、正解以外の選択肢にも意識して以下のような語彙を分散させて使った<sup>8)</sup>。

- 1) 同じ単語同士やその品詞だけを変えたもの  
例: der Unterricht と unterrichten
- 2) 同じ形で用法の違うもの(いわゆる同音異義語を含む)  
例: finden =「～を…と思う」と finden =「～を見つける」
- 2) 語幹や基礎動詞部分に同じ形を含むもの  
例: bringen と umbringen
- 3) 形が似ているもの  
例: passieren と passen

なお、受験者が後で参照できるように、各問にはすべて当該の言語機能の索引番号を付けた。

### 1.3. 使用した語彙

使用した語彙のリストの一覧は、付録1・2として本稿の末尾にあげた。付録1の表は、使用した動詞とその変化形の頻度一覧である。初級者に対する口頭コミュニケーションでの頻出度を考え、大部分の問題の時制は、現在形または現在完了形(=話し言葉の過去形)にした。また動詞が、話法の助動詞を伴って使われる場合も別に項目をたてて区別した。動詞の各変化形の使用回数は、それぞれのべ数で、現在形 250、助動詞と共に起るもの 51、現在完了 40、過去形 3、推量 2、zu不定詞 5、接続法I式 0、接続法II式 6、命令形13、受動態2である<sup>9)</sup>。

付録2は、使用した名詞・形容詞・副詞・不変化詞のリストである。動詞の場合と同様、初級用ドイツ語教科書に頻出する語彙から選んだ。ただ、このテストの対象者が学生であることを考慮し、名詞では、たとえば、das Atomkraftwerk(原子力発電所)、die Sonnenenergie(太陽エネルギー)、der Umweltschutz(環境保護)、der Finanzminister(大蔵大臣)、die Wirtschaftspolitik(経済政策)、die Pflegeversicherung(介護保険)などのやや堅い語彙も意識的に取り入れた<sup>10)</sup>。

### 1.4. 学習診断と受験者へのフィードバック

外国語の「コミュニケーション能力テストが具現すべき条件」の一つは「受験そのものが」外国語の「コミュニケーション能力の養成」につながるものであるべきだという指摘が、田中(2000)の中でなされている。今回のドイツ語コミュニケーション・テスト作成の際には、この点にもとりわけ注意を払った。具体的には、採点后、間違えた問題を索引番号でチェックして、その学習を指示するようにした。その際、単に問題となった言語機能の習熟度について診断するだけでなく、それぞれの言語機能ごとに、教科書や授業の中で扱った代表的な表現形式と例文をつけて返すようにした。もちろんこれらは、網羅的なリストではなく、せいぜい2つから3つの代表的な表現形式にとどめた。以下の例は、「謝罪する-謝罪の表明に対応する」および「共同行動を提案する-提案に同意する」という言語機能に関して用意したフィードバック用の表現形式と例文である。

#### 採点后に返す言語機能の表現形式と例文の例

##### ○ 謝罪する

- 1) Entschuldigen Sie (, dass ...), Verzeihen Sie (, dass ...). フォーマルな関係の場合  
Entschuldige (, dass ...), Verzeih (, dass ...). カジュアルな関係の場合
- 2) Es tut mir leid (, aber ...).
- 3) leider

##### ○ 謝罪を受け入れる

Das macht nichts. = かまわないよ。

Das ist nicht so schlimm. = 別にたいしたことじゃないよ。

#### 例文

Entschuldigen Sie bitte, dass ich zu spät komme. Mein Auto war kaputt. (kaputt = こわれた)

— Ach, das macht nichts. Die anderen kommen sowieso nicht pünktlich. (sowieso = どうせ)

Tut mir leid, aber ich hatte gestern wirklich keine Zeit. (wirklich = 本当に)

— Ach, das war nicht so schlimm. Hans war da und er konnte uns helfen. (da sein = 〜がいる)

○ 提案する

動詞 + wir.....?

Wollen wir .....?

○ 提案を受け入れる

Ja, gerne. = ええ, 喜んで。

Ja, das ist eine gute Idee. = はい, それは良い考えですね。

Ja, warum nicht? = うんそれいいね。

例 文

Essen wir heute lieber italienisch?

— Ja, warum nicht? Ich kenne eine gute Pizzeria.

Wollen wir ein bisschen spazieren gehen?

— Ja, gerne. Das Wetter ist doch so schön heute.

1.5. オンライン化

この種のコミュニカティブ・テストをオンライン化することの意義は、実施の際の簡便さである。WWW上で動くシステムをいったん作ってしまえば、たとえばマークシート方式などに比べても、格段に低い人的・経済的コストで対応できる<sup>11)</sup>。また、フィードバックとしても、個々の言語機能の習熟度の診断結果や1.4.にあげたような表現形式や例文を返すだけでなく、使用語彙や文型・文法の索引付きリストを返したり、再学習用のページとリンクさせるなど、学習と診断のサイクルをオンライン上で作ることの意義は大きい<sup>12)</sup>。

2. 評価

2.1. 実施対象

今回作成したような形式・内容とレベルのドイツ語のコミュニカティブ・テストが、初心者とのコミュニケーション能力との相関をどの程度示しているかを調べるために、広島大学の学生を被験者としてペーパーテストの形でテストAを実施した<sup>13)</sup>。本節では、その結果について簡単に報告する。

被験者はドイツ語を週2回1年学習してきた1年生42人で、1年間の授業がほぼ終了した2月初旬に実施した。テストAに出てきた単語の大部分は、授業の中で一度は扱っている。時間制限をせずに行わせたが、やってしまった学生が多く、退屈しているようなので、55分ほど経過した時点で退出の自由を宣言すると2人を除くすべての学生が、提出して退出した。

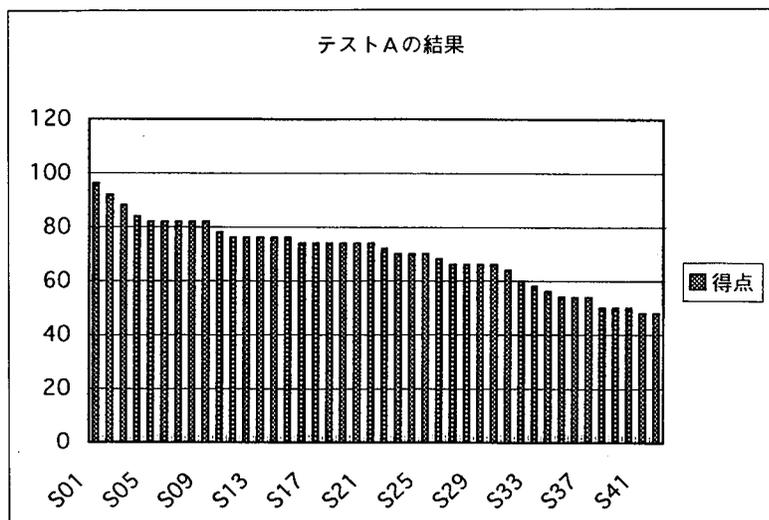
2.2. 実施結果

被験者には、100点満点で得点の高い順にS01からS42まで通し番号をつけた。42人の被験者の各得点と平均および標準偏差は以下の通りである。平均点は、69.8とやや高めに出ており、レベル的に難しすぎるということはなかったようである。また、平均からのばらつきを示す標準偏差は、12.32と比較的大きく、個人差が大きかった。

ドイツ語コミュニケーション・テストの実施結果

被験者	得点	被験者	得点
S01	96	S22	72
S02	92	S23	70
S03	88	S24	70
S04	84	S25	70
S05	82	S26	68
S06	82	S27	66
S07	82	S28	66
S08	82	S29	66
S09	82	S30	66
S10	78	S31	64
S11	76	S32	60
S12	76	S33	58
S13	76	S34	56
S14	76	S35	54
S15	76	S36	54
S16	74	S37	54
S17	74	S38	50
S18	74	S39	50
S19	74	S40	50
S20	74	S41	48
S21	74	S42	48

平均	69.8
標準偏差	12.32



次ページおよびその次のページの表は、すべての設問ごとに42人の被験者がそれぞれどのような解答をしたかの全データと各設問ごとの正解および正答率(%)の一覧である。網のかかっている部分は、各設問の誤答の箇所およびそれぞれの誤答を選んだ者の数である。これらを詳細に検討することで、各被験者の個々の理解状況や解答を見つけようとする際の戦略がわかるだけでなく、問題そのものの適切性についての情報なども得られる。たとえば、特に正答率の低かった設問からは、内容が理解できないときに被験者はしばしば語彙の同一性を基準として解答しようとしたり、自分がよく知っている別の言語機能の枠組みで理解しようとして間違えていることがわかった。たとえば、設問28/31/41では、「話かける発話」と「応答の発話」のなかでそれぞれ共通に使われている dürfen/nach Haus gehen/Satz などの同一性から誤答に導かれている。それに対し、たとえば設問40では、「発言を終える」ではなく、「感謝する－相手の感謝に対応する」という別の言語機能の枠組みで解釈してしまったため誤ったケースが目立つ。特に、設問40の場合、このように誤解して答えた18人のうち14人までが、設問14を正解し、「感謝する－相手の感謝に対応する」という言語機能を正しく読みとっていることからそれがわかる。

### 全設問の回答結果と正答率一覧

\* 網掛けは、誤答の選択肢の箇所である。なお、各問題ごとに、誤った選択肢を選んだ者の数も網掛けにしてある。

\* 得点は、100点満点である。また各問題の正答率の単位は％である。

設問		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
正解		d	a	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	c	d	
氏名	得点																									
学生01	96	d	a	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	c	d	
学生02	92	d	a	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	c	d	
学生03	88	d	a	b	a	d	a	c	a	c	c	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	c	d	
学生04	84	d	a	b	a	d	a	c	a	c	c	c	b	c	b	a	d	d	a	d	a	c	a	d	d	
学生05	82	d	a	b	a	a	a	a	c	b	c	a	c	b	a	d	b	a	d	a	a	a	d	d	d	
学生06	82	d	a	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	d	d	a	c	b	a	d	
学生07	82	d	a	b	a	d	a	c	a	c	c	c	b	d	b	a	d	b	a	d	a	c	a	a	d	
学生08	82	d	a	b	a	d	a	c	a	c	c	c	b	c	b	a	d	d	a	d	a	b	a	c	b	
学生09	82	d	a	b	a	a	a	c	a	c	b	b	b	c	b	a	d	b	a	d	a	b	a	a	d	
学生10	78	d	a	b	a	a	a	c	a	a	b	c	d	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	a	d	
学生11	76	d	a	b	a	d	a	b	a	b	c	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	c	b	
学生12	76	d	a	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	a	d	c	c	a	c	d	
学生13	76	d	a	b	a	c	a	a	c	b	c	d	c	c	a	d	b	b	d	c	d	d	c	d	d	
学生14	76	d	a	b	a	d	a	c	a	a	b	c	b	c	b	a	d	d	a	d	a	c	a	a	b	
学生15	76	a	a	b	a	a	a	b	a	c	b	c	b	c	b	d	d	d	a	d	a	c	b	a	d	
学生16	74	d	d	c	a	d	b	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	b	a	d	c	c	d	c	d	
学生17	74	d	a	b	a	d	a	a	a	c	b	c	b	c	d	a	d	a	d	d	a	c	a	c	c	
学生18	74	d	a	b	a	a	a	a	a	c	c	c	b	c	b	a	d	b	a	d	a	c	a	a	c	
学生19	74	d	a	b	a	d	a	c	a	d	a	c	a	c	b	a	d	a	a	d	d	b	a	a	c	
学生20	74	d	a	b	a	a	a	d	a	d	c	c	d	c	b	a	d	b	b	d	a	c	a	a	d	
学生21	74	d	a	b	a	c	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	c	d	c	a	a	c	a	a	d	
学生22	72	d	c	b	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	d	a	d	d	a	d	b	c	b	c	b	
学生23	70	d	a	c	a	d	a	c	a	c	b	c	b	c	a	a	d	d	c	d	a	b	b	a	d	
学生24	70	d	a	b	a	b	a	c	a	c	c	c	d	c	b	a	d	b	b	d	b	b	a	c	d	
学生25	70	d	a	b	a	d	a	c	a	c	c	a	b	c	d	a	d	d	a	c	c	c	d	c	d	
学生26	68	d	a	c	a	b	a	b	d	c	b	c	b	c	d	a	d	b	d	b	a	c	a	a	d	
学生27	66	d	a	c	a	d	a	b	a	d	b	c	b	c	b	a	a	a	d	a	d	c	b	d	d	
学生28	66	d	a	b	b	c	a	d	a	c	c	c	a	c	b	a	d	a	a	b	c	d	a	c	d	
学生29	66	d	a	b	a	d	a	d	a	b	b	c	c	b	b	a	d	d	c	b	a	c	d	c	b	
学生30	66	d	d	c	c	d	a	c	a	c	b	c	b	c	b	a	d	d	a	a	b	b	a	a	d	
学生31	64	d	a	b	c	d	a	c	a	d	b	d	b	c	b	a	d	d	b	b	a	b	b	a	c	d
学生32	60	d	c	b	a	a	a	c	a	c	b	c	b	c	b	c	d	a	c	d	a	c	c	a	d	
学生33	58	c	b	b	a	c	a	c	a	c	b	c	a	b	d	d	d	a	c	d	a	d	a	c	b	
学生34	56	d	a	b	a	c	a	d	a	c	c	b	b	c	b	a	d	b	b	a	a	b	d	e	b	
学生35	54	d	a	d	a	d	a	c	a	c	b	d	d	c	b	d	d	a	b	a	e	b	a	a	d	
学生36	54	d	b	b	d	a	c	d	a	c	b	c	a	c	b	c	d	b	d	b	c	b	d	c	c	
学生37	54	a	d	b	a	b	a	c	a	c	c	d	c	a	c	a	d	b	d	a	a	c	a	c	d	
学生38	50	d	b	c	a	b	a	c	a	c	c	c	d	c	b	a	d	c	d	b	b	d	a	a	b	
学生39	50	a	b	b	a	d	a	c	a	c	c	c	b	c	c	a	a	d	d	a	c	c	a	c	b	
学生40	50	d	d	d	c	a	a	d	a	d	c	b	b	c	d	b	d	b	a	d	a	c	a	a	d	
学生41	48	d	a	d	a	a	a	c	a	b	a	b	c	c	d	a	d	d	a	a	c	b	a	c	d	
学生42	48	d	c	b	c	d	b	a	a	c	c	c	c	c	b	a	d	a	d	b	b	c	a	a	d	
平均点	69.8																									
各問の正答率	67	76	76	86	55	93	62	98	76	57	83	64	93	74	86	93	48	50	62	62	62	71	52	69		
aをんだ数	3	32	0	36	10	39	5	41	2	2	1	5	0	1	36	2	8	21	8	26	1	30	19	0		
bをんだ数	0	3	33	1	4	2	5	0	3	24	4	27	2	31	1	0	20	7	7	5	11	5	0	9		
cをんだ数	1	3	6	4	5	1	26	0	32	16	35	3	39	3	2	1	1	5	1	9	26	1	22	4		
dをんだ数	38	4	5	1	23	0	6	1	5	0	2	7	1	7	3	39	13	9	26	2	4	6	3	29		
未回答者の数																										

全設問の回答結果と正答率一覧 (続き)

設問	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正解	a	c	c	a	d	a	a	b	a	c	a	d	a	a	a	c	d	b	a	b	b	b	a	a	b	c
氏名																										
学生01	a	c	c	a	d	b	a	b	a	c	a	d	a	a	a	c	d	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生02	a	c	c	a	d	a	a	b	a	c	a	d	a	a	c	d	c	b	a	b	b	b	a	e	b	c
学生03	d	c	c	d	d	c	a	b	a	c	a	d	a	a	a	c	d	b	d	b	b	b	a	b	b	c
学生04	a	c	c	a	d	b	a	b	a	c	a	c	a	a	a	a	d	b	d	b	b	b	a	d	b	c
学生05	a	c	c	a	d	a	a	d	a	c	a	d	a	a	a	c	c	b	b	b	b	b	a	c	b	c
学生06	c	d	c	a	d	a	a	b	a	c	a	d	a	a	a	d	c	b	a	b	c	b	a	a	d	c
学生07	a	c	c	d	d	a	b	b	a	c	a	d	a	a	d	d	c	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生08	a	c	c	d	d	a	a	b	a	c	d	d	a	d	a	d	c	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生09	d	c	c	a	d	e	a	b	a	c	a	d	a	a	a	c	c	b	c	b	b	b	a	d	b	c
学生10	c	c	c	a	d	a	a	d	a	c	c	d	a	a	a	c	d	d	d	a	b	b	b	a	b	c
学生11	a	c	c	d	d	a	c	d	c	a	c	a	a	a	d	b	b	a	b	b	b	a	a	d	c	
学生12	c	c	c	d	d	e	b	d	a	c	b	c	a	a	c	c	d	d	b	a	b	b	a	a	d	c
学生13	a	c	c	a	d	a	a	d	a	c	a	d	a	c	d	a	c	d	b	a	b	b	a	b	b	c
学生14	a	a	c	c	d	a	b	c	a	a	a	d	a	a	e	d	c	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生15	d	c	c	a	d	a	b	b	a	c	a	c	a	a	a	c	b	a	b	b	b	a	a	a	b	c
学生16	a	d	c	a	d	a	c	b	a	a	a	d	a	a	c	c	b	d	a	b	c	a	a	a	b	c
学生17	a	c	c	d	d	a	b	d	a	a	a	d	c	a	a	c	d	b	a	a	b	b	a	a	c	d
学生18	d	c	c	c	d	a	a	c	d	a	a	a	a	a	c	c	d	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生19	d	c	c	a	d	a	a	c	a	c	a	d	a	a	a	d	c	b	a	b	b	b	a	d	b	c
学生20	c	c	c	a	d	e	a	c	a	a	a	d	a	d	a	c	d	b	a	b	b	b	a	a	c	c
学生21	a	c	c	d	d	a	b	c	a	c	a	d	c	a	a	a	d	b	a	b	b	b	a	b	b	c
学生22	a	c	b	a	d	d	b	b	a	c	a	d	a	a	b	c	c	b	c	b	d	b	a	b	b	c
学生23	b	c	c	b	d	a	a	d	a	a	a	c	c	a	a	d	c	b	a	b	b	b	a	a	b	c
学生24	a	a	c	a	d	c	a	d	a	d	a	d	e	a	a	c	b	b	b	b	b	b	b	c	b	c
学生25	d	c	c	a	d	a	c	c	a	a	a	d	a	a	b	c	d	a	a	d	b	b	d	a	b	c
学生26	c	c	a	d	d	a	c	d	a	c	a	d	a	a	a	d	b	b	a	b	b	b	a	a	d	c
学生27	a	a	c	a	a	a	d	b	d	c	a	d	a	b	c	c	d	b	a	b	b	b	a	a	c	c
学生28	b	c	c	d	d	a	b	b	a	a	c	d	a	a	a	b	d	d	a	b	c	b	a	a	b	c
学生29	a	a	c	d	d	a	a	d	a	a	a	d	a	a	a	d	c	d	a	a	b	b	a	e	b	c
学生30	a	b	c	b	d	a	d	b	c	b	a	d	a	d	a	d	b	b	a	b	a	b	b	a	b	c
学生31	a	c	c	a	d	a	b	d	c	a	c	d	a	b	a	d	b	b	a	a	b	b	d	a	b	c
学生32	d	c	c	a	d	a	d	a	a	c	d	d	c	a	c	d	d	a	a	d	d	a	a	b	c	c
学生33	a	c	c	d	d	a	b	c	a	c	e	d	c	a	a	b	d	d	a	b	c	b	a	c	d	c
学生34	c	c	c	d	d	c	b	b	a	c	a	c	a	d	c	b	b	c	c	a	b	b	a	a	b	c
学生35	d	a	a	c	a	a	b	b	c	a	a	d	d	a	a	b	c	b	a	b	b	b	d	a	d	c
学生36	b	c	b	a	d	a	b	b	a	a	a	d	a	d	a	d	b	b	a	b	b	a	a	c	d	c
学生37	a	c	a	d	a	d	b	b	d	a	a	c	d	a	a	d	d	b	a	b	d	a	d	a	c	c
学生38	a	a	a	d	d	d	c	b	b	a	a	c	a	a	c	d	b	d	a	b	c	b	a	a	b	c
学生39	a	a	a	d	d	c	c	c	a	a	b	a	a	a	c	d	b	a	c	a	b	a	c	c	c	c
学生40	b	a	c	d	d	c	d	b	c	a	a	b	a	d	a	b	c	b	a	b	d	b	d	b	b	c
学生41	c	a	c	d	d	e	d	b	c	d	a	a	d	a	c	d	b	b	a	b	c	a	d	a	b	c
学生42	a	c	c	d	e	c	b	d	a	c	a	d	a	d	b	b	b	d	a	d	b	a	b	d	c	c
平均点																										
正答率	55	74	83	45	91	64	38	50	74	55	90	67	79	76	64	36	43	71	76	90	69	86	79	60	64	98
aの数	23	8	5	19	3	27	16	2	31	16	34	3	33	32	27	3	0	3	32	5	2	6	33	25	0	0
bの数	4	1	2	2	0	2	15	21	1	1	2	1	0	2	3	6	11	30	2	34	29	36	3	7	27	0
cの数	7	31	35	4	1	10	6	8	6	23	4	10	6	0	11	15	13	1	3	1	6	0	0	7	7	41
dの数	8	2	0	17	38	3	5	11	4	2	2	28	3	8	1	18	18	8	3	2	5	0	6	3	8	1
未回答																										

### 2.3. ドイツ語技能検定結果との相関

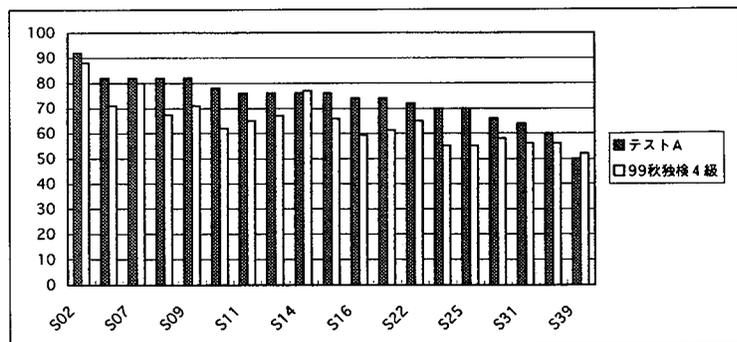
被験者42人の結果にかなりの得点差が出たことはすでに触れたが、これが本当に学力差を反映しているかどうかを調査するために、別の標準化テストとの比較を試みた。たまたま、被験者の約半数である19人が1999年度秋期ドイツ語技能検定試験4級（以下、独検4級と略す）を受験していたので、この19人を抽出し、独検4級の得点を別個に聞き取り調査し、両者の結果を比較した。なお、1999年度秋期ドイツ語技能検定試験は1999年11月23日に実施されており、テストAの実施時期である2000年2月4日との間に約2ヶ月半の時間差があるが、ドイツ語学習の後半の時期であり、3ヶ月以内であればそれほど大きな影響がないと考えた。以下は、抽出した被験者のそれぞれのテストの得点・平均・標準偏差の比較および、その相関である。0.83という数値からわかるように、かなり高い相関関係が出た。

ドイツ語技能検定試験4級(99年秋)受験結果との比較

被験者	テストA	99秋独検4級
S02	92	88
S05	82	71
S07	82	80
S08	82	67.3
S09	82	71
S10	78	62
S11	76	65
S12	76	67
S14	76	77
S15	76	65.8

平均	73.8	64.8
標準偏差	9.13	9.22
相関		0.83

被験者	テストA	99秋独検4級
S16	74	59.3
S18	74	61.3
S22	72	65
S23	70	55
S25	70	55
S30	66	58
S31	64	56
S32	60	56
S39	50	52



### 3. おわりに——外国語教育におけるコミュニカティブ・テスト導入の意義——

大学におけるドイツ語教育においては、ほとんどの学習者がゼロスタートの初心者である。したがって、1年ないしは一年半の授業を通じて学習者がどの程度のレベルに達したかを測ることで、教師には、それまでの授業内容を評価し改善していくための直接的な指針が得られる。また、学習者にとっても、新たに始めた学習がもたらした成果を確認し、今後の学習で何を補って行くべきかの手がかりが得られる。しかしながら、現状では、いくつかの大学やドイツ語関連の専門コースを除けば、習熟度を測る統一試験の試みはまだごく少数である<sup>14)</sup>。また、行われる場合も主として文法や語彙の習熟度の評価が中心となり、それ以外の評価基準が考慮されることはほとんどない。

日本の大学におけるドイツ語教育の場においても、今日では、言語の使用場面や言語機能を考

慮したシラバスに基づく教科書が増加しており、またドイツ語圏で開発された教科書を使用する場合も含め、授業内容においては、コミュニケーション能力の養成に重点を置く方向での一定の変化が見られる。しかし、評価の面では、相変わらず、文法や和訳に重点をおいたテストが中心となることが多いようである<sup>15)</sup>。筆者が自らの非力も顧みずあえてこうしたコミュニケーション・テストの作成を試みたのも、授業内容において始まりつつある試みを評価の面にも反映したいと考えたからである。もちろん、コミュニケーション・テストとは言いながらも、マルチプルチョイスという受動的な側面に重点を置いた形式のテストはコミュニケーション能力という総合的な能力を測る手段としては、全く不十分なものである。また、テキストだけに頼る出題のモード自体にも大きな限界がある。したがって、これだけで学習者のコミュニケーション能力を評価できるというつもりはない。産出的な側面を直接評価するには、たとえば、課題作文<sup>16)</sup>や面接評価なども重要であろう。ただし、これらは、評価できる分野に眼界があること、実施の際の時間的・人的コストの面で大がかりに行うのが現状ではかなり困難であること、またそうした体制が十分でないとそれだけではしばしば印象判断に基づく主観的な評価が下されるなどの問題点もある。それに対し本稿で紹介したようなマルチプル・チョイス形式のコミュニケーション・テストの利点は、大規模な実施が可能なこと、また、現時点で何を修得し何が今後の課題であるかについての明示的な結果を学習の手引きとして直接学習者に返せることなどである。週1・2回1年程度という時間的な制約の中で、一人の教師が大人数の初心者学生を対象として授業を行うという大学における現状のドイツ語教育の枠組みの中では、教師の負担などを考慮すると、いまのところ、こうしたコミュニケーション・テストに課題作文や簡単な面接試験等を組み合わせる折衷的な評価が一番現実的ではないだろうか<sup>17)</sup>。こうしたコミュニケーションテストの開発の試みが、これまで文法だけに偏ってきた評価基準の一層の多角化につながれば幸いである<sup>18)</sup>。

## 注

- 1) 研究課題は「インターネット上で動く外国語コミュニケーション能力診断テストの開発」(代表者 岩崎克己、共同研究者 田中正道 /Joe Lauer)である。英語のコミュニケーションテストについては、田中(2000)および Tanaka, M. / Lauer, J. (2000)参照。なお、本研究は、広島大学外国語教育研究センターの平成11年度研究プロジェクト「外国語能力診断テストの開発とその効率的な実施体制の研究」(代表者 岩崎克己、共同研究者 田中正道 /Joe Lauer)の成果報告の一部でもある。
- 2) <http://home.hiroshima-u.ac/katsuiwa/langfunc.htm> からアクセスできる。(2001年6月以降)
- 3) 田中の提案した約50の言語機能の中から4つを削り、別の5つを加えた。変更箇所は網がけでマークしてある。なお、出題数を50題に絞るために今回は、あえて加えなかったが、「理由を問う」(Begründungen erfragen), 「理由付ける」(begründen, rechtfertigen, argumentieren), 「義務であることを示す」(auf Verpflichtung hinweisen), 「行為の可能・不可能を表現する」(Fähigkeit/Unfähigkeit, (Nicht-) Zuständigkeit, (Nicht-) Machbarkeit ausdrücken), 「行為の可能・不可能について問う」(nach Fähigkeit, Zuständigkeit, Machbarkeit fragen), 「欲求や願望を表わす」(Wunschvorstellungen ausdrücken), 「意志を表明する」(Absicht ausdrücken), 「選択的な好みについて問う」(nach Vorliebe fragen), 「選択的な好みを言う」(Vorliebe ausdrücken), 「興味を示す」(Interesse ausdrücken)なども、本来は検査対象に含めてしかるべき重要な言語機能である。

- 4) The Threshold Level (1975), Un niveau-seuil (1976), Un nivelumbral (1979), Kontaktschwelle (1980) などがそれぞれである。
- 5) たとえば、ゲーテ・インスティトゥートの初級修了試験 (Zertifikat) はこの Threshold Level に合わせられている。またオーストリア・ドイツ語検定 (Österreichisches Sprachdiplom Deutsch) では、Common European Framework of Reference for Language Learning and Teaching (Strasbourg 1996) に基づき、Threshold Level やその中間点としての Waystage Level を含む 6 つのレベル (Grundstufe I: Breakthrough Level / Grundstufe II: Waystage level / Mittelstufe I: Threshold level / Mittelstufe II: Vantage level / Oberstufe I: Effective Operational Proficiency Level / Oberstufe II: Mastery Level) を設定している。詳しくは、<http://www.uni-klu.ac.at/dia/ksb.htm> および <http://www.uni-klu.ac.at/dia/Kurse.html> 参照。また、ALTE (Association of language Testers in Europa) による新たな統一基準の設定も進められている。これについてはたとえば、L'INSTITUT / GOETHE-INSTITUT / 国際交流基金 / The British Council (1995) p.121-134 参照。
- 6) Kontaktschwelle は英語版の Van Ek, J. A. (1975) に続いて出されたフランス語版 Coste, D. et al. (1976) の影響を受けて、対象グループの設定や言語機能の分類がより精密化されている。また、大枠の分類においても当時の言語行為理論の影響をより強く受けている。それに対し、Threshold 90 の方は、外国語教育の分野でのその後の発展を反映し、たとえば、コミュニケーションのストラテジーなどの側面がより広く考慮されている。
- 7) テスト A では、選択肢を「応答の発話」に設定した問題が 35 題、「話しかける発話」の方に設定した問題が 15 題ある。
- 8) その逆に、語の形態や語源は異なるが同一の指示対象を持ち得る単語や、上位概念・同位概念・下位概念などの意味関係を媒介として同一の指示対象を持ち得るような単語も意識して用いた。
- 9) 各設問を手直しする中で、結果的に haben や話法の助動詞の過去形を含む問題が無くなってしまった。現時点では、テスト A の中の過去形の使用頻度が少なすぎたことを反省している。
- 10) 大部分は、英語からの類推や応答の文脈から判断できるものだったが、die Pflegeversicherung (介護保険) だけは難しすぎるということが後からわかり、後に述べる実施の際には、訳注をつけた。
- 11) たとえば、マークシート 1 枚あたりの製造単価は、1000 枚注文するとして約 25 円から 40 円程度である。また読みとりに要する時間は、熟練の程度にもよるがパソコン接続の簡易の読み取り機を使った場合、最終的なデータ形式に加工するまでで、約 1 ないしは 2 時間程度である。
- 12) オンライン化の最大の障害は、セキュリティ上の問題であり、特に受験者を厳密に特定できない点である。パスワード等の手段を使ってアクセスを制限し、かつ一ヶ所に集めて個人を特定しながら行うのでなければ、何らかの資格テストとして行うことはむずかしい。
- 13) TA としてテストの採点に協力してくれた大学院生の田中雅敏君に感謝したい。
- 14) 日本独文学会ドイツ語教育部会 ドイツ語教育に関する調査研究委員会 (編) (1999) によればなんらかの統一試験や基準を導入しているところは回答校の 5% に過ぎない。
- 15) 最近では、ドイツ語でのいくつかの質問に対し自分に即して自由に答えさせるような問題などをテストで出題する教師も増えてきた。たとえば Haben Sie Geschwister? / Was haben Sie am Wochenende gemacht? 等の問いである。しかし、こうした形式の設問にも、その大部分

は「情報を求める・情報を与える・記述する」という特定の言語機能に偏り過ぎているという意味で、問題がないわけではない。

- 16) インターネット上の電子掲示板を利用することで、教師の負担を減らしながら課題作文を授業（評価）の中に組み込もうとする試みについては岩崎（2000）参照。
- 17) 筆者は、このほかにもカセット提出による発音診断／書き換えを主体とした文法テスト／15）に述べたようなような自由回答の問題なども出している。
- 18) コミュニケーション能力の総合的な評価を目指した検定試験には、これまでもゲーテ・インスティトゥートの Zertifikat があった。しかし、初級者には到達目標としてレベルが高すぎることや東京や関西近辺以外に在住する学生にとっては受けに行くこと自体が大変であるなどの問題点も多かった。幸いなことに一昨年、オーストリアドイツ語検定（ÖSD）が、いくつかの大学で実施可能になってきた。特にその初級 I（Grundstufe I）は、1 年程度の学習者でも合格に手が届くレベルである。個別の大学や各教員ではなかなか難しいコミュニケーション能力の総合的な評価を補う意味で、こうした検定の受験者が増えることを期待したい。なお、ÖSD に関しては、森田（1999）にその詳しい紹介がある。また実施機関のサイトの URL は <http://www.uni-klu.ac.at/dia/oesd.htm> である。

## 参考文献

- Albers, H-G. / Bolton, S. (1995): Fernstudieneinheit 7 Testen und Prüfen in der Grundstufe-Einstufungstests und Sprachstandsprüfungen. Langenscheidt.
- 青山博次郎編 (1980): 『暮しの中の統計学』, 21-41, 東洋経済新報社.
- Bachman, L. F. / Palmer, A. S. (1990): *Language Testing in Practice*. Oxford University Press.
- Baldegger, M. / Müller, M. / Schneider, G. / Näf, A. (1980): Kontaktschwelle Deutsch als Fremdsprache. Langenscheidt.
- Bolton, S. (1996): Fernstudieneinheit 10 Probleme der Leistungsmessung-Lernfortschrittstests in der Grundstufe. Langenscheidt.
- Brown, J. D. (1990) *Testing in Language Programs*, Prentice Hall. (邦訳『言語テストの基礎知識』和田稔訳, (1999) 大修館.)
- Coste, D. et al. (1976): *Un niveau-seuil*. Conseil de l'Europe, Strasbourg.
- Häussermann, U. / Piepho, H. (1990): Aufgabenhandbuch - Deutsch als Fremdsprache Abriß einer Aufgaben- und Übungstypologie - indicum.
- 岩崎克己 (1999): 初修外国語授業支援のための自習用オンライン自動採点ドリル. 『広島外国語教育研究 2』, 23-37, 広島大学外国語教育研究センター.
- 岩崎克己 (2000): 公共的な発表空間としてのインターネットと外国語学習 - 電子掲示板を使ったドイツ語課題作文の試み -, 『広島外国語教育研究 3』, 21-41, 広島大学外国語教育研究センター.
- 岩崎克己 (2000): インターネット上で動く初級者用ドイツ語文法ドリル, 『広島外国語教育研究 3』, 109-143, 広島大学外国語教育研究センター.
- Johnson, K. / Johnson, H. (1990): *Encyclopedic Dictionary of Applied Linguistics*, Blackwell Publishers. (邦訳『外国語教育大辞典』岡秀夫監訳, (1999) 大修館.)
- Kast, B. / Neuner, G. (Hrsg.) (1994): Zur Analyse, Begutachtung und Entwicklung von

- Lehrwerken - für den fremdsprachlichen Deutschunterricht. Langenscheidt.
- L'INSTITUT / GOETHE-INSTITUT / 国際交流基金 / The British Council (1995): 『コミュニケーションと外国語教育のニーズ』。
- McNamara, T. (2000): *Language Testing*, Oxford University Press.
- 森田昌美 (1999): 最も新しいドイツ語能力検定試験 - ÖSD の概要とそのドイツ語授業に与える示唆 -。『流通科学大学論集 - 人文・自然編』, 第12巻第1号, 1-14, 流通科学大学学術研究会。
- Müller, J. / Bock, H. (1991): *Grundwortschatz Deutsche Übungsbuch*. Langenscheidt.
- 日本独文学会第3回ドイツ語教授法ゼミナール実行委員会 (1997): 『第3回ドイツ語教授法ゼミナール報告 (Dokumentation des 3. Didaktikseminars für japanische Germanisten 1996)』 東京ドイツ文化センター。
- 日本独文学会ドイツ語教育部会ドイツ語教育に関する調査研究委員会 (編) (1999): 『ドイツ語教育の現状と課題 - アンケートの結果から改善の道を探る』。
- Oxford, R. L. (1990) *Language learning Strategies-What Every Teacher Should Know*. Wadsworth. (邦訳『言語学習ストラテジー』 宍戸通庸/伴紀子 訳, (1994) 凡人社。)
- Rampillon, U. / Zimmermann, G. (Hrsg.) (1997): *Strategien und Techniken beim Erwerb Fremder Sprachen*. Hueber.
- Tanaka, M. / Lauer, J. (2000): *Communicative Test in English for Japanese University Students*. 広島大学外国語教育研究センター。
- 田中正道 (2000): 大学生用英語コミュニケーション能力テストの研究開発。『広島外国語教育研究3』 1-9。広島大学外国語教育研究センター。
- Van Ek, J. A. (1975): *The Threshold Level, with an appendix by Alexander, L. G.*, Council of Europe, Strasbourg.
- Van Ek, J. A. / Trim, J. L. M. (1990): *Threshold 90*, Cambridge University Press. (邦訳『新しい言語教育の指針 中級学習者レベル〈指導要領〉』 米山朝二/松沢伸二 訳, (1994) 大修館。

## 付録 1 : 使用した動詞の一覧

	動詞/助動詞	現在形	話法助動詞	現在完了	過去形	推 量	不定詞	接続法 I	接続法 II	命令法	受動態
1	dürfen	6	—								
2	können	14	—								
3	möchten	12	—								
4	müssen	10	—								
5	sollen	5	—						4		
6	wollen	5	—								
7	sein	54			3	1			1	1	
8	haben	19									
9	abfahren		1								
10	abstellern		1								
11	anfangen	1									
12	ankommen			1							
13	anrufen			1							
14	antworten	1								1	
15	arbeiten	3									
16	aufhören	1									
17	aufnehmen		1								
18	aufstehen		1								
19	aussehen	1									
20	bauen	1	1								
21	behaupten	1									
22	bekommen	2									
23	bemalen			1							
24	besuchen	1	1			1					
25	bitten		1								
26	bleiben	1									
27	brauchen	5									
28	bringen	2								1	
29	buchstabieren									1	
30	danken	10					2				
31	dauern	1									
32	denken		1								
33	diskutieren			2							
34	einladen		1								
35	entschuldigen									2	
36	essen						1				
37	fahren	1									
38	fallen			1							
39	feiern		1								
40	fernsehen			1							
41	finden	5		2							
42	fragen		1								1
43	freuen	2		1							
44	funktionieren	1									
45	fürchten	1									
46	geben	1									
47	gefallen	2									
48	gehen	9	1	1						1	
49	gehören	1									
50	gewinnen			1							
51	glauben	2									
52	gründen		1								

## 付録 1 : 使用した動詞の一覧 (続き)

	動詞/助動詞	現在形	話法助動詞	現在完了	過去形	推量	不定詞	接続法 I	接続法 II	命令法	受動態
53	helfen		3								
54	hören		1								
55	interessieren	1									
56	kaufen	2	2	2							
57	kennen	2									
58	kochen	1									
59	kommen	11	1							2	
60	kosten	4									
61	lernen	1									
62	lesen	3									
63	liegen	1									
64	loswerden		1								
65	machen	2	4	2					1	1	
66	meinen	3		1							
67	mitbringen	1									
68	mitkommen	1									
69	nachschlagen		1								
70	nutzen		1								
71	parken		4								
72	passieren		1	2							
73	rauchen	1	1								
74	regnen	1									
75	reisen	1									
76	reparieren			1			1			1	
77	sagen	2	3	1							
78	schaffen	1									
79	schenken		1	2							
80	schlafen		1								
81	schließen		1								
82	schreiben	1	1								
83	sehen	1	1	2							
84	sparen		1								
85	spielen	2		1							
86	sprechen	1	2							1	
87	stehen	1									
88	stehlen			2							
89	stimmen	1									
90	studieren	2		1							
91	suchen		1								
92	treffen	1									
93	trinken	1									
94	tun	2		2			1				
95	übernachten		1	1							
96	übersetzen		1								
97	umbringen	1									
98	umsetzen		1								
99	unterrichten	1									
100	vergessen			1							
101	verhaften			1							
102	verlieren			2							
103	verpassen			1							
104	verstehen			2							

# 付録 1 : 使用した動詞の一覧 (続き)

	動詞/助動詞	現在形	語法助動詞	現在完了	過去形	推 量	不定詞	接続法 I	接続法 II	命令法	受動態
105	vorbereiten		1								
106	vorhaben	2									
107	vorstellen		1								
108	warten	2								1	
109	werden	1	1	1							
110	wiederholen	1									
111	wissen	4									
112	wohnen	3									
113	zeigen	1									
114	zerstören	1									1
	総数	250	51	40	3	2	5	0	6	13	2

# 付録 2 : 使用した名詞・形容詞・副詞 不変化詞の一覧

## 使用した名詞

die Adresse  
das Alibi  
die Apotheke  
die Arbeit  
der Arbeitsplatz  
die Art  
das Aspirin  
die Atombombe  
das Atomkraftwerk  
die Aufmerksamkeit  
der Aufsatz  
der Augenblick  
der Ausdruck  
die Außenpolitik  
die Auswahl  
das Auto  
der Autounfall  
der Bau  
der Baukasten  
das Beispiel  
der Beruf  
das Bild  
das Blasinstrument  
das Buch  
das Café  
die CD  
die Chance  
die Chinareise  
das Chinarestaurant  
Chinesisch  
der Computer  
die Computerfirma  
die Dame  
der Dank  
Deutschland  
der Direktor  
die Diskussion  
das Dorf  
die Reise  
die Elektrizität  
pl. Eltern  
der E-Mail  
die Energie  
die Energiequelle  
der Engel  
die Entschuldigung  
das Fahrrad

das Fenster  
der Finanzminister  
die Flasche  
der Flug  
der Flughafen  
das Foto  
die Frau  
die Frage  
der Freund / die Freundin  
die Fußballmannschaft  
der Geburtstag  
das Geld  
das Gepäck  
das Geschenk  
das Gesundheitsrisiko  
das Glas  
das Handy  
der Hauptbahnhof  
das Haus  
der Herr  
die Hilfe  
das Hobby  
der Hunger  
die Idee  
die Informatik  
die Informationsfrage  
das Internet  
das Jahr  
Japan  
Japanisch  
die Karaoke-Bar  
der Käsekuchen  
das Kilo  
das Kind  
das Kino  
der Kontakt  
der Kopf  
pl. Kosten  
die Krawatte  
die Kreuzung  
der Laden  
das Lokal  
die Lust  
das Mah-Jongg  
der Mann  
die Matheprüfung  
das Medikament

die Meinung  
die Menge  
der Mensch  
das Menschenrecht  
das Mittelalter  
der Mittwoch  
der Moment  
die Mutter  
der Name  
die Natur  
das Neujahr  
der Onkel  
das Orchester  
die Ordnung  
das Osterei  
pl. Ostern  
der Parkplatz  
die Party  
die Pause  
Peking  
der Plan  
der Platz  
die Pflegeversicherung  
die Pflicht  
die Philosophie  
die Polizei  
die Posaune  
die Post  
der Preis  
der Professor  
das Projekt  
der Projektleiter  
das Prozent  
die Prüfung  
das Rathaus  
die Raucherabteilung  
das Referat  
der Regen  
der Regenschirm  
der Satz  
der Schluss  
pl. Schmerzen  
pl. Schuhe  
pl. Schulden  
die Schule  
die Schwester  
die Sommerferien

die Sonnenenergie  
die Sportzeitung  
der Sprachunterricht  
die Stadt  
die Stelle  
die Straße (die Goethestraße)  
das Stück  
der Student  
die Stunde  
Taiwan  
der Tag  
die Tageszeitung  
die Tasche  
die Tat  
das Thema  
die Tochter  
die Tomate  
der Tourist  
die Tür  
die Überraschung  
die Uhr  
die Umwelt  
der Umweltschutz  
der Unfall  
die Universität  
das Unternehmen  
der Unterricht  
der Vater  
der Veranstalter  
die Verzeigung  
der Vorschlag  
die Waschmaschine  
das Wasser  
der Weg  
pl. Weihnachten  
der Wein  
die Wirtschaftspolitik  
pl. Wirtschaftswissenschaften  
das Wochenende  
das Wörterbuch  
die Zeitung  
das Zimmer  
der Zug  
die Zukunft

## 付録 2 : 使用した名詞・形容詞・副詞 不変化詞の一覧 (続き)

### 使用した形容詞

akustisch	klein ⇔ groß
arm	lang
aufmerksam	langsam ⇔ schnell
billig	langweilig ⇔ interessant
blöd	laut
böse	letzt
chinesisch	müde
deutsch	nah (nächst)
direkt	nett
einverstanden	neu ⇔ alt
eng	passend
englisch	recht
erlaubt ⇔ verboten	rentabel
fähig	richtig
finanziell	satt
frei	sauber
früh ⇔ spät	schlimm
ganz	schrecklich
günstig	sinnvoll
gemütlich	super
gesund	umweltfreundlich
gleich	unzufrieden
gut ⇔ schlecht	verschieden
hilfsbereit	viel
intensiv	weit
jung ⇔ alt	wichtig
kalt	zufällig
kaputt	
klar	

### 使用した副詞および不変化詞

aber	neulich
auch	noch
bestimmt	normalerweise
doch	nun
eigentlich	nur
endlich	oft
erstens, zweitens, drittens	schade
genau	schon
genug	selbstverständlich
gern	sicher
gleichfalls	sofort
heute	total
immer	unbedingt
ja	wieder
leider	zufällig
links	
mal	

## 付録3：ドイツ語コミュニケーション・ テスト(テストA)

●以下の各問は、それぞれ2人の話者のやりとりです。適切なやりとりになるものをそれぞれ、a)-d)から一つ選び○をつけなさい。(制限時間60分)

1. Wie findest du die Krawatte hier? (01)  
a) Ich habe sie leider nicht gefunden.  
b) Meine Krawatte kostet 100 DM.  
c) Ich möchte meinem Vater eine Krawatte kaufen.  
d) Nicht schlecht. Aber die Krawatte da steht dir besser.
2. Was ist denn los? Ist etwas passiert? (02)  
a) Ja, mein Computer ist kaputt gegangen.  
b) Ja, ich brauche noch passende Schuhe dazu.  
c) Nein, ich habe eigentlich nichts vor.  
d) Ja, vor 10 Jahren ist hier ein Autounfall passiert.
3. a) Wann fängt der Unterricht an? (03)  
b) Wo arbeitest du denn?  
c) Wo warst du denn da?  
d) Was lernst du in der Schule?  
Ich unterrichte jetzt an einer Schule in Hiroshima.
4. Die Wirtschaftspolitik muss in Zukunft noch umweltfreundlicher werden. (04)  
a) Ja, das stimmt. Ich bin ganz Ihrer Meinung.  
b) Ich studiere Wirtschaftswissenschaften.  
c) Die neue Außenpolitik gefällt mir nicht.  
d) Was ist Ihre Meinung dazu?
5. a) Ulrike behauptet, dass Hans das Geld gestohlen hat. (05)  
b) Hans hat das Geld wahrscheinlich verloren.  
c) Die Polizei hat Hans schon verhaftet.  
d) Hans hat das Geld bestimmt gestohlen.  
Warum bist du so sicher? Er hat doch ein Alibi.
6. a) Darf man hier parken? (06) (08)  
b) Möchten Sie hier parken?  
c) Wo soll ich hier parken?  
d) Wie lange kann man hier parken?  
Nein, Parken ist verboten. Aber da drüben ist ein Parkplatz.
7. Darf ich hier rauchen? (06) (07)  
a) Nein, danke. Es geht schon.  
b) Ja, gern. Das möchte ich auch unbedingt sehen.  
c) Ja, bitte. Sie sind hier in der Raucherabteilung.  
d) Nein, ich trinke nicht und rauche nicht.

8. Morgen machen wir eine Party ohne Eltern. Kommst du auch? (9)
- a) Ja, gern. Das ist super.
  - b) Das ist aber schade.
  - c) Eine Party kostet mich eine Menge Geld.
  - d) Ja, ich habe mich darüber gefreut.
9. Die Waschmaschine habe ich schon repariert. Sie funktioniert wieder. (10)
- a) Ich fürchte, die Waschmaschine ist nicht mehr in Ordnung.
  - b) Die Waschmaschine ist leider nicht mehr zu reparieren.
  - c) Wunderbar! Das haben Sie sehr gut gemacht.
  - d) Blöd, da muss ich mir eine neue Waschmaschine kaufen.
10. Herr Direktor, wie gefällt Ihnen mein Vorschlag? (11)
- a) Herr Klein, ich bin leider durch die Prüfung gefallen.
  - b) Tja, Herr Klein, mit Ihrem Plan bin ich leider unzufrieden.
  - c) Herr Klein, ich freue mich schon auf Ihren Vorschlag.
  - d) Nein, Herr Klein, ich muss noch den Plan in die Tat umsetzen.
11. Hallo, Herr Schubert! Wir haben uns ja lange nicht gesehen. (12)
- a) Haben Sie zufällig meine Frau gesehen?
  - b) Ich habe heute den ganzen Tag ferngesehen.
  - c) Ah, Frau Strauß! Was für eine Überraschung!
  - d) Der Unterricht war heute sehr langweilig.
12. Tut mir leid. Aber wir haben keine Stelle für Sie. Für diese Arbeit sind Sie zu alt. (13)
- a) Haben Sie da keinen Platz für mich? Hier ist es zu eng.
  - b) Schade! Da habe ich schon wieder nichts gefunden.
  - c) Haben Sie hier keine andere Auswahl?
  - d) An Ihrer Stelle würde ich so etwas nicht machen.
13. Es regnet draußen. Frau Matusche, ich fahre Sie nach Haus. (14)
- a) Haben Sie einen Regenschirm?
  - b) Da warte ich zu Hause auf Sie.
  - c) Vielen Dank. Das ist sehr nett von Ihnen.
  - d) Bis der Regen aufhört, bleibe ich zu Haus.
14. Ich danke Ihnen herzlich für Ihre Hilfe. (14) (15)
- a) Danke, gut. Und Ihnen?
  - b) Nein, nichts zu danken.
  - c) Einen Moment, bitte.
  - d) Danke, gleichfalls.
15. Entschuldige, dass ich zu spät komme. Ich habe den Zug verpasst. (16) (17)
- a) Ach, das ist nicht so schlimm. So etwas kann jedem passieren.
  - b) So ist es gut. Mach weiter so! Dann bekommst du eine Chance.
  - c) Ich habe soviel Schulden, dass ich nachts nicht gut schlafen kann.
  - d) Der Zug ist leider 2 Stunden zu spät angekommen.

16. a) Meine Schwester will uns an diesem Wochenende besuchen. (18)  
 b) Ich habe gestern bei meiner Freundin übernachtet.  
 c) Heute habe ich viel zu tun. Erst um 7 Uhr komme ich nach Haus.  
 d) Zum Geburtstag will ich meiner Tochter ein Fahrrad schenken.  
 Das ist eine gute Idee.
17. Weißt du, er will ein Unternehmen gründen. Da möchte ich ihm gern finanziell helfen. (19)  
 a) Wir brauchen doch keine finanzielle Hilfe.  
 b) Ich bin dagegen. Du bekommst dein Geld nie zurück.  
 c) Der Finanzminister besucht sein Unternehmen.  
 d) Ja, er ist ein guter Mensch und immer hilfsbereit.
18. a) Bei dem Unfall hat er sein Kind verloren. (20)  
 b) Er hat mich gestern nicht angerufen.  
 c) Er zeigt uns den Weg zum Rathaus.  
 d) Er hat neulich ein neues Auto gekauft.  
 Ach, armer Hans!
19. Gehen wir am Wochenende nicht ins Kino? (21) (22)  
 a) Am Donnerstag habe ich leider eine Matheprüfung.  
 b) Ja, dann treffen wir uns am Mittwoch um 3 Uhr.  
 c) Heute muss ich mich noch für die Prüfung vorbereiten.  
 d) Ja, warum nicht? Ich warte um 6 vor dem Café 'Grünwald'.
20. Es ist kalt geworden. Können Sie bitte das Fenster schließen? (23)  
 a) Ja, gerne.  
 b) Na und.  
 c) Nein, danke.  
 d) Und wie!
21. Du solltest endlich dein Zimmer sauber machen. (24)  
 a) Meine Arbeit ist immer sauber.  
 b) Das Zimmer ist leider zu klein.  
 c) Das habe ich schon getan.  
 d) Haben Sie ein Zimmer frei?
22. Mein Kopf tut mir schrecklich weh. Bringen Sie mir doch bitte ein Aspirin! (25)  
 a) Ja, sofort. Ich bringe Ihnen auch ein Glas Wasser.  
 b) Sagen Sie es niemandem! Sonst bringe ich Sie um.  
 c) Oh weh! Ich kann diese Schmerzen nicht loswerden.  
 d) Das ist unsere Apotheke. Hier haben wir verschiedene Medikamente.
23. Entschuldigen Sie! Können Sie mir sagen, wo die nächste Post ist? (26)  
 a) Ja, selbstverständlich. Hier in der Nähe gibt's eine Post.  
 b) Ja, ich arbeite schon seit vierzig Jahren auf der Post.  
 c) Gehen Sie geradeaus und an der nächsten Kreuzung nach links!  
 d) Gegenüber der Post liegt ein kleines gemütliches Lokal.

24. Entschuldigung, kann ich Ihnen helfen? (27)  
 a) Ja, Ihre Mutter hat die Tasche im Zug vergessen.  
 b) Nein, das darfst du nicht. Das ist nicht erlaubt.  
 c) Warten Sie bitte einen Moment. Ich komme gleich.  
 d) Oh, danke. Wie komme ich zum Hauptbahnhof Hiroshima?
25. a) Möchten Sie noch ein Stück Käsekuchen? (28) (30)  
 b) Es ist schon spät. Sie können heute bei uns übernachten.  
 c) Ich habe noch Hunger. Und Sie?  
 d) Möchten sie nicht die Tomaten? Sie kosten 2 DM das Kilo.  
 Nein danke. Ich bin schon satt.
26. Ich koche heute chinesisch. Ich möchte dich gern einladen. (28) (29)  
 Hast du Lust, chinesisch zu essen?  
 a) Ja, sicher. Ich kenne ein gutes Chinarestaurant.  
 b) Ja, mein Onkel hat auch einen Laden.  
 c) Ja, danke. Dann bringe ich eine Flasche guten Wein mit.  
 d) Ich glaube ja. Aber ich spreche kein Chinesisch.
27. Guten Tag, Herr Schmidt! Wie geht es Ihnen? (31) (32) (33)  
 a) Es geht doch um Ihr Geld.  
 b) Ja, ich gehe gern mit Ihnen.  
 c) Danke gut. Und Ihnen?  
 d) Kommen Sie gut nach Haus!
28. Frau Weber, darf ich Ihnen Herrn Schubert vorstellen? (34)  
 a) Guten Tag, Herr Schubert. Freut mich.  
 b) Guten Tag, wie ist Ihr Name?  
 c) Nein, Herr Schubert. Das geht nicht.  
 d) Ja, Sie dürfen Ihr Gepäck vor der Tür abstellen.
29. a) Frohe Ostern! Ich habe Eier gekauft. Haben Sie schon mal Ostereier bemalt? (35)  
 b) Unsere Fußballmannschaft hat das Spiel gewonnen. Das müssen wir feiern.  
 c) Zwischen Weihnachten und Neujahr habe ich immer frei.  
 d) Paul, alles Gute zum Geburtstag! Das ist mein Geschenk für dich.  
 Vielen Dank!
30. Herr Professor Tanaka, welche Zeitung lesen japanischen Studenten normalerweise? (36)  
 a) Tja, die jungen Leute heutzutage lesen gar keine Zeitung.  
 b) Viele Studenten interessieren sich für Umweltschutz.  
 c) Wir lesen gern die Zeitung Asahi.  
 d) Die Sportzeitung ist etwas billiger als die normale Tageszeitung.
31. Was meinst du damit? Wenn du meine Hilfe nicht brauchst, gehe ich eben nach Haus. (37)  
 a) Daniel, so habe ich es nicht gemeint. Sei nicht böse.  
 b) Ich weiß noch nicht, wann ich nach Haus gehen soll.  
 c) Meinst du auch, dass wir einander helfen sollen?  
 d) Daniel, komm endlich nach Haus!

32. a) Wir haben schon genug diskutiert. Wir sollten langsam zum Schluss kommen. (38)  
 b) Ich möchte auch über die Kosten dieses Projekts sprechen.  
 c) Vor der Diskussion machen wir eine kleine Pause.  
 d) Das Referat war gut. Aber die Diskussion danach war langweilig.  
 Ja, das Thema ist auch sehr wichtig. Wir sollten jetzt darüber diskutieren.
33. Sollen wir weiter Atomkraftwerke bauen oder eine andere Energiequelle suchen? (39)  
 a) Meiner Meinung nach sollten wir die Sonnenenergie noch intensiver nutzen.  
 b) Durch eine Atombombe wurde die Stadt Hiroshima total zerstört.  
 c) In Japan kommt knapp 40 Prozent der Elektrizität aus Atomkraftwerken.  
 d) Wir müssen noch mehr an unsere Umwelt denken und Energie sparen.
34. Warum sind Sie gegen den Bau des neuen Flughafens? (40)  
 a) Weil meine Kinder sehr gern mit dem Baukasten spielen.  
 b) Der Flughafen schafft viele Arbeitsplätze. Wir brauchen doch Arbeit, nicht wahr?  
 c) Erstens ist er teuer, zweitens zerstört er die Natur, und drittens wird er nicht rentabel sein.  
 d) Wenn wir einen Flughafen bauen, werden viele Touristen unser Dorf besuchen.
35. Was kann man im Sprachunterricht mit dem Computer machen? (41)  
 a) Zum Beispiel kann man per E-Mail einen direkten Kontakt mit Deutschen aufnehmen.  
 b) Meine Frau kauft per Internet viele Bücher und CDs zum günstigen Preis.  
 c) Mein Vater spielt Mah-Jongg per Internet mit seinem Freund in Taiwan.  
 d) Ich habe in Deutschland Informatik studiert und arbeite jetzt in einer Computerfirma.
36. Für dieses Projekt brauchen wir einen fähigen Projektleiter. (42)  
 Wie finden Sie Herrn Dr. Specht?  
 a) Ja, er findet es auch sinnvoll.  
 b) Wer kann das Projekt leiten?  
 c) Ich habe ihn nirgendwo gefunden.  
 d) Ja, er ist genau der richtige Mann.
37. a) Übrigens, was ist eigentlich Ihr Hobby? (43)  
 b) Wann wollen Sie morgen von Hiroshima abfahren?  
 c) Was sind Sie eigentlich von Beruf?  
 d) Wie lange dauert der Flug von Hiroshima nach Peking?  
 Ich reise gern. Ich habe in den Sommerferien eine Chinareise vor.
38. a) Darf ich mal was sagen? (44)  
 b) Daniel, sprich nicht so laut!  
 c) Muss ich morgen so früh aufstehen?  
 d) Bist du auch der gleichen Meinung?  
 Ja, bitte. Ich möchte jetzt auch deine Meinung hören.
39. Hat jemand eine Frage? Bitte, Herr .... (45)  
 a) Klein, mein Name ist Klein. Ich habe nur eine kleine Informationsfrage.  
 b) In meinem Referat möchte ich über die Menschenrechte sprechen.  
 c) Herr Professor, ich glaube, so etwas kommt gar nicht in Frage.  
 d) Antworten Sie doch endlich! Sie sind gefragt.

40. Das wär's. Danke für Ihre Aufmerksamkeit. (46)  
 a) Ich möchte Sie nun auf das Gesundheitsrisiko des Rauchens aufmerksam machen.  
 b) Meine Damen und Herren, darf ich einen Augenblick um Aufmerksamkeit bitten?  
 c) Frau Dr. Böll, im Namen der Veranstalter danke ich Ihnen für Ihren interessanten Vortrag.  
 d) Nein, nichts zu danken, Frau Böll. Ich habe nur meine Pflicht getan.
41. a) Ich muss heute noch einen Aufsatz schreiben. (47)  
 b) Ich antworte immer im ganzen Satz!  
 c) Können Sie den letzten Satz ins Japanische übersetzen?  
 d) Entschuldigung, aber ich habe Sie akustisch nicht verstanden.  
 Oh, Verzeihung. Ich wiederhole den letzten Satz noch mal.
42. Wie bitte? Können Sie mir bitte seine Adresse noch mal sagen? (48)  
 a) Ja, er hat schon eine Adresse.  
 b) Er wohnt in der Goethestraße 16.  
 c) Nein, er wohnt nicht weit.  
 d) Ja, ich weiß, wo er wohnt.
43. Meinst du damit, dass Andi heute noch kommt? (49)  
 a) Na klar. Er kommt bestimmt.  
 b) Nein, seine Meinung kommt nicht in Frage.  
 c) Ja, ich muss ihn noch fragen.  
 d) Ja, das ist meins.
44. a) Was studieren Sie an der Universität München? (50) (51)  
 b) Wie schreibt man das? Buchstabieren Sie bitte!  
 c) Immanuel Kant? Wer ist denn das? Was hat er gemacht?  
 d) Ich habe eine Frage. Wie sagt man 'Philosophie' auf japanisch?  
 P-H-I-L-O-S-O-P-H-I-E, Philosophie.
45. a) Wo kann man in Japan ein deutsches Auto kaufen? (52)  
 b) Was ist denn die Pflegeversicherung?  
 c) Was sollen wir für die Party heute machen?  
 d) Wem gehört das Wörterbuch hier?  
 Ich weiß auch nicht, was das ist. Ich muss im Wörterbuch nachschlagen.
46. Wie sagt man 'cellular phone' auf deutsch? (53)  
 a) Das ist mein Handy.  
 b) Handy. Der Ausdruck kommt aus dem Englischen.  
 c) Mein Handy kostet nur 30 DM.  
 d) Mit meinem Handy.
47. Was ist eine Posaune? (54)  
 a) Sie ist eine Art Blasinstrument wie die Trompete.  
 b) Ich habe einmal in einem Orchester Posaune gespielt.  
 c) Auf Bildern aus dem Mittelalter sieht man oft Engel mit Posaunen.  
 d) Mein Vater hat mir eine Posaune zum Geburtstag geschenkt.

48. a) Wir gehen noch in die Karaoke-Bar. Kommst du mit? (55)  
b) Bist du schon wieder gesund?  
c) Was willst du denn noch?  
d) Ich bin müde. Gehen wir nach Haus?  
Ich habe doch gesagt, ich bin müde.
49. a) Ist es dir recht so? (56)  
b) Ist alles klar?  
c) Bist du damit einverstanden?  
d) Hast du schon alles bei dir?  
Ja, ich habe alles verstanden.
50. Mein Freund Thomas ist 28 Jahre alt. Hier ist sein Foto. Wie findest du ihn? (57)  
a) Er ist Student.  
b) Ich möchte auch einen Freund.  
c) Hm, er sieht sehr jung aus.  
d) Den kenne ich nicht.

## ABSTRACT

### **A Basic German Communicative Test Using Language Functions to Measure Proficiency**

Katsumi Iwasaki

Institute for Foreign Language Research  
and Education, Hiroshima University

The characteristics of a new German communicative test for Japanese university students is explained in the first half of this paper. This test was developed by the author with the aid of a special research grant from the Japan Society for the Promotion of Science. The test and a list of all vocabulary used in it are detached as an appendix.

In order to write this communicative test, the author selected 57 basic language functions as anchor points for measuring the communicative competence of learners at the beginner's level. Some functions utilized include offering an apology, requesting assistance, suggesting a course of action, and so on. The language functions were taken from *Baldegger, M. / Müller, M. / Schneider, G. / Näf, A. (1980): Kontaktschwelle Deutsch als Fremdsprache.* and also from *Van Ek, J. A. / Trim, J. L. M. (1990): Threshold 90.* These two publications are the most famous standard reference books for test- and textbook writers and for curriculum designers in German and English language education, respectively.

The second half of this paper reports on 42 Hiroshima University freshmen who took the communicative test. The students had learned German for 90 hours (30 weeks, twice a week including guidances and tests). An error analysis of the test results revealed strategies which learners seem to utilize when they encounter problems in understanding test dialogues.

Nineteen of the 42 students who took the communicative test also took the Dokken 4-Kyu, the Fourth Grade of the German Proficiency Test. So, test scores could be compared. The results showed a statistically meaningful relationship between the two tests (0.83).

The author is now developing an on-line testing system which provides examinees not only with automatically-evaluated test results, but also with vocabulary lists and references to helpful supplementary exercises.